

## 11期生 合格者インタビュー

## 東京大学 理系

## — Part 1 —

しん あきよし  
邢 明吉さん (理Ⅰ・武蔵)ふるかわ のりゆき  
古川 倫千さん (理Ⅱ・開成)たにやま ひびき  
谷山 響さん (理Ⅱ・女子学院)み かみ ふかし  
三上 玄さん (理Ⅰ・早稲田)ひがしの まさのぶ  
東野 昌伸さん (理Ⅰ・麻布)

グノには、面白い英文をたくさん読む中で、言葉の持つ意味を掘り下げながら、自然と語彙を増やしていける独自の仕組みがあります。加えて、授業がとてつもなく濃密でした。

三上 玄さん (理Ⅰ・早稲田)

## 目次

●入塾のきっかけ	P17
●グノーブルの評判	P18
●グノーブルの英語	P18
●英語が伸びた時期	P19
●英語の勉強法	P20
●グノーブルと英会話	P20
●グノーブルの数学	P21
●グノーブルの国語	P21
●グノーブルの物理	P22
●グノーブルの先生	P22
●後輩へのアドバイス	P22

※●は、このPDFフルバージョンのみの掲載項目



邢 明吉さん (理Ⅰ・武蔵)

## 入塾のきっかけ

**三上:** 中学生の頃は他塾の英語に通っていましたが、「このままでは伸びない」と思い、高1からは塾を変えようと考えていました。グノを勧めてくれたのは父です。さまざまな情報を父なりに分析して、大学受験とその先のことを視野に入れ、「確実に英語を伸ばせる塾」として選んでくれたのがグノでした。

説明会に参加してみたら、先生方のお話に「面白そうだな」と僕も興味湧いて、英語と古文で入塾しました。

**古川:** 「英語は早めに塾に入らないといけない」と思い、中3の初めに塾を探しました。周りの人たちに塾のテキストを見せてもらいました。グノの教材はクリーム色の冊子で、薄くて背表紙もないし、フォントも堅苦しくなく、厳しくなさそうな第一印象が良かったです。他塾のことも気にはなりましたが、まだ4年あって余裕もあるからと思いグノに入ってみたら、結局気に入って最後までお世話になりました。

**邢:** もともと学校の授業についていけないくらい英語が苦手だったので、高1から他の塾に通っていました。家から近いという理由で選んだ塾でしたが、高2になったとき、その授業が面白くなくて、塾に行くのが嫌になってしまい、転塾を考えました。

兄\*もグノを勧めてくれましたし、英語がよくできる学校の友達もグノに通っていると知って、「グノに通えばできるようになるのかな」と思うようになり、グノに入ることを決意しました。高2の秋のことでした。

\*邢 明彦さん。Gno-let vol.13 合格者インタビュー「国立大学医学部」にご出席いただきました。

**東野:** 僕も高校2年からです。きっかけは、「いい英語の塾に通いたい」と思ったことです。仲のいい



谷山 響さん (理Ⅱ・女子学院)

友達数人がグノに通っていましたが、インターネットで調べたら、生徒と先生方の距離感が僕に合いそうだったので、説明会に参加したところ、ここなら大丈夫だと思ってそのまま入塾しました。

説明会で古文の重要性にも気づかされ、古文も受講することにしました。グノの環境が気に入ったので、その後、数学と物理も受講しました。

**谷山**：私は中1から英語と数学でお世話になりました。小学生の時に英会話に通っていたため英語を感覚的に捉えてしまう傾向があり、それを心配した母がいろいろな塾を検討して英語に強いグノを勧めてくれました。

数学も受講してみたらとても気に入って、「すごく楽しかったから」と親に頼んで受講することになりました。

## グノーブルの評判

**三上**：僕の場合、高1でグノに入ってすぐに結果が表れました。周りの人たちに「どうやったら英語ができるようになるの？」と聞かれました。僕は「絶対にグノに行け」と答えていました。でも、高1の頃はまだ、「大手の方が安心」という考えの人が多数でした。

ところが、高3になると急にグノに転塾する人が増えました。大学受験が現実味を帯びてきて、本当に力がつく塾を探し始めた結果、グノに行き着いたんだと思います。

**邢**：武蔵でも、グノを知っている人は多くありませんでした。だから、英語が苦手な友達に「どこの塾に通ったらいいの？」と聞かれたときは、僕はグノを勧めていました。僕にとってグノはとても好きな塾なので、積極的に宣伝していました。そうしたら、友達の何人かが入ってくれて、今ではグノの認知度もだいぶ高くなりました。ただ、すでに他の塾に通っている人たちも多くて、そういう人たちがグノに興味を示すことはあまりなく、それが残念でした。

**古川**：主体的に取り組めば、グノではさらに高い英語力を手にできますから、開成にはグノでどんどん力を伸ばしている人が結構いました。ただ通って成績を上げようという受け身タイプの人には、宿題が大量に出る塾の方がいいかもしれません。

僕自身は、先生が怖そうで宿題が多いところは嫌で、伸び伸びとしているグノが合っていました。

**谷山**：女子学院は、自由で主体的に行動するという校風です。だから、女子学院生の間では塾や成績の話があまり出てこないにもかかわらず、グノに通う人が多かったのかもしれません。

**東野**：グノの評判といえば授業時間の延長です。ぴったりの時間に終わらないということは、授業に妥協や割愛がないということです。そういう意味で僕は真摯な塾だと思っていました。

僕の場合、お茶の水で塾を探していて、お茶の水には大手の予備校もありましたが、グノの教室の広さや雰囲気は、主体的な取り組みにはぴったりだと思いました。東大受験の場合、主体的に取り組めることは大切なことだと思いますし、グノに通う麻布生は主体性のある優秀な人が多いイメージでした。

## グノーブルの英語

**邢**：グノに転塾してからは、授業が面白くて感動しました。まずは毎回配付される英文の教材が新鮮で、内容も面白いことに驚きました。先生に当ててもらえるので、こちらのやる気も湧きますし、先生と生徒がやり取りしながら授業は進んでいくので退屈しません。

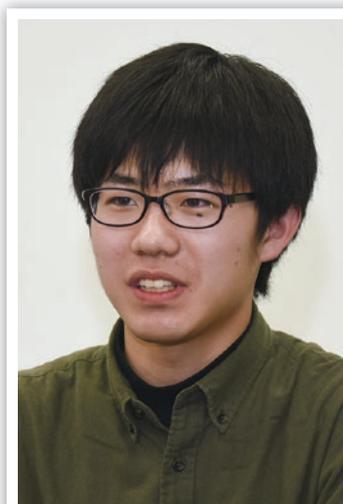
**東野**：先生とのやり取りがあるのは、確かに良かったです。授業に主体的に取り組めるし、第一眠くなりません。英語の授業は、先生から生徒に対して一方的に叩きこまれる印象がありましたけど、グノの授業は全然違います。

先生が面白い英文を用意してくださって、僕たちがその場でそれを演習して、答案をすぐに先生が添削してくださって、それを踏まえての解説が始まり、解説のときにも先生が当ててくださって、グノの授業は常に双方向のやり取りがあって新鮮でした。

**谷山**：他塾で英語を習ったことがないのですが、友人の話聞く限り、最初に数か月分のテキストを渡されて、宿題の答え合わせと解説を受けるのが他塾の印象です。一方グノは、毎回の授業で演習、直後に添削、そして詳しい解説というライブ感のある授業です。当然グノの方がモチベーションを保ちやすいと思います。

英文の内容も、先生が私たちの興味を惹く題材を選んでくださって、その時々旬の話題も多くありました。英語を学びながら英語以外の知識を身につけられたことはとても有意義でした。

**邢**：僕が前に通っていた塾も予習型で、事前に配付されたテキストを授業前に解いてくる授業スタイルでした。グノの授業は、その場で演習してすぐに解説を聞けます。分からなかったところが頭の中



東野 昌伸さん (理I・麻布)

に残ったまますぐに解説が聞けると納得しやすいですし、理解も深まりました。

**谷山**：他の塾との違いといえば添削です。グノでは毎回の授業で、答案を提出してすぐ添削されたものが返却されて、その場で解説を受けられます。そういう授業は他の塾では聞いたことがありません。

**三上**：毎回添削があって、答案がその場で返却されると、コメントからも点数からもそのときの自分の位置や課題がはっきり分かります。いいときには励まされるし、悪いときにも課題がその場ではっきり分かるのでモチベーションが高まります。ちゃんと先生に見ていただけている安心感もあります。

加えて、授業がとてつもなく濃密でした。演習中は気を抜けないし、解説の時間も聞き逃さないように集中するので、時間を有効活用できます。

**古川**：授業の内容面でいえば、グノは単語の語源を重要視します。そのため、単語のイメージがつかめて、いくつもの単語が有機的につながっていきます。

**谷山**：市販の単語帳を使わないのもグノの特徴でした。他塾に通う周りの人たちは単語帳を暗記していて、私も「単語帳をやらなければならないのかな？」と思ったこともあります。

でも、グノの授業では語源を説明してくださるので、授業中に先生が解説されたことや自分でメモしたことなどを毎回復習すれば大丈夫でした。本屋で単語帳を眺めても、分からない単語がそれほど多くなかったのも、最後まで単語帳を開くことはありませんでした。

**東野**：僕も単語帳をやらないことに不安を持った時期がありました。「授業で扱う英文に出てくる単語だけだと漏れがあるんじゃないか？」という不安です。

実際、英文を読んでいて知らない単語に出くわすことはよくあって、辞書的な定義としての日本語が出てこない不安につながります。でも、大切なのは、そういう単語でも語根や接頭辞、接尾辞などで大体の意味がつかめたり、文脈から推測できたりすることです。

結局、単語帳をやらないまま東大を受験しましたが、入試が終わった今となっては、やらなかったことに問題がなかったどころか、メリットの方が大きかったと実感しています。

**三上**：他塾の友達は、塾の方針で単語帳を覚えさせられますよね。彼らを見ていたら「自分も同じ単語帳をやるべきなのかな？」という不安に駆られて、3日間くらい単語帳を暗記しようとしたことがありました。でも、あまりにもつまらなくてやめてしまいました。

それでも模試の結果は友人よりも良かったので二度と単語帳を開くことはありませんでした。単語の丸暗記は英語の勉強をつまらなくしている最大の原因だと思います。その点グノには、面白い英文をたくさん読む中で、言葉の持つ意味を掘り下げながら自然と語彙を増やしていける独自の仕組みがあります。

**古川**：僕の周りでも全員単語帳をやっていました。僕自身はそこまで単語の暗記に固執する必要を感じませんでした。グノの授業を通して、英文の中でその言葉の意味を押さえていくことや、英文のリズムや流れをつかんでいくことの方がはるかに大切だと思っていたので、その時間を音読に回していました。そのやり方で模試でも困ったことはありませんでした。

グノで重視している音読の効果が分からなくて、単語帳の暗記に力を使う人がいるのだと思います。僕自身は、ちゃんと音読を継続していればいかに英文をスラスラ読めるかという音読効果に驚かされた経験があったので、グノのやり方を信じて続けていました。

**谷山**：他塾の人たちは、音読するよりも、英文に文構造を書き込むことに一生懸命でした。いろんな括弧を使い分けて書き込んでいく作業は私にはできませんでした。でも、音読をしていれば、そんな作業をしなくても英文の内容をすばやく把握できるようになっていくので問題ありませんでした。

## 英語が伸びた時期

**邢**：英語はもともと苦手でした。でも、クラス分けテストでクラスが上がってきたら、だんだん楽しくなってきました。高2の秋に入って2か月後くらいに、急に実力がついてきて、「勉強すれば成績は伸びるんだな」と実感しました。以前も英語の勉強はしていましたが、グノに入ってからの大きな違いはGSL\*です。

そこからますます英語の勉強に打ち込みました。高3になるあたりからは、模試の成績も伸びてきて、それにつれてどんどん英語が好きになっていきました。

\* Gnoble Sound Laboratory：中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。

**東野**：僕は、高3の春のクラス分けテストのために、1、2週間本気で英語を叩き込みました。このとき、読むスピードが速くなって英語力の伸びを感じたのです。

読むスピードが速くなると読む量が増えて、面白い英文に出会う回数が多くなるので、英語の勉強が指数関数的に楽しくなりました。

**谷山**：私は、小学生のときから英語に触れていたもので、もともと英語が好きでした。グノに入ってか



古川 倫千さん (理Ⅱ・開成)

らもずっと調子が良かったです。

でも、高校に上がったときにクラスが落ちて、「このままじゃダメだな」と思いました。高1から高2のときはスランプで、しばらくa2とa1を行き来していました。このときに工夫したのが音読のやり方です。

それまでも音読はしていましたが、疲れた日は字面だけを追っていたので、そこを改善しました。寝る前に音読するのではなく、一番元気な時間帯に音読するようにし、グノの先生方のアドバイス通り、プレゼンするように音読することも心がけました。それからはa1で安定するようになりました。

※当時の通常授業は、a（最上位）、a1、a2、a3、a4の設定。高2の6月以降a5増設。

**古川：**僕も、もともと英語は好きで得意な方だったので、英語に対して抵抗はありませんでした。

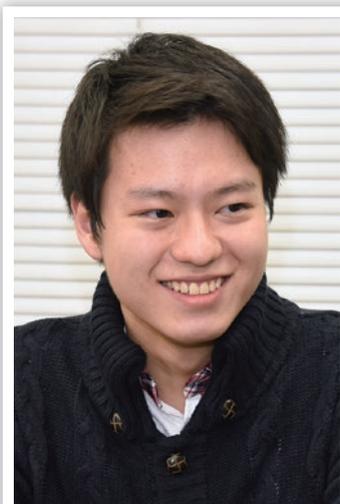
英語が面白くなったのは高3の夏あたりでした。スマホでTED\*を見ていても聞き取れるものが増えてきて、グノでの勉強の成果が表れたことをうれしく思いました。

僕も、プレゼンを意識した音読はやっていました。

\*さまざまな分野で活躍する人物がプレゼンテーションを行う世界的なイベント。インターネット上で動画が無料配信されている。

**三上：**僕も英語に苦手意識はありませんでしたが、グノの英文で音読をし始めてからはどんどん楽しくなりました。

高1から高2にかけては復習が習慣になっていませんでした。高3になって復習に力を入れ始めて、プレゼンするように音読していたら、うまく英語を話せるような気になって、ますますモチベーションが上がりました。



三上 玄さん (理1・早稲田)

## 英語の勉強法

**三上：**とにかく毎日音読することです。夜に音読しようとする、その日のスケジュールによってできたりできなかったりします。だから、僕は、毎朝起きる時間を30分早めにして、学校に行く前の時間に、リスニングと音読をしていました。

**古川：**僕は逆に、夜を勉強時間に充てていました。あまり寝つきが良くなかったので、寝る前にリスニングをしながらシャドーイングをして、いつのまにか寝ている、というパターンが多かったです(笑)。

**谷山：**私も毎日やりました。英語に1日でも触れないと感覚が鈍るんです。部活の合宿などで触れない日があると、「やっておけば良かった」という気持ちになります。

だから、どんな勉強でもいいから、1日1回は必ず英語をやっていました。「今日は英作文をやろう」とか「今日はリスニングをやろう」とか、1日で全分野をやろうとせずに、できる範囲で継続しました。

**那：**僕も毎日英語の勉強に取り組んでいました。特に力を入れていたのはリスニングです。頭の中で内容をイメージしながら聞くと、英文を前から読む力もリスニング力と一緒に鍛えられます。これを続けていった結果、長文もスラスラ読めるようになりました。

**東野：**皆さんとは違って、僕は短期集中でガッツとやるのが合っていました。1日中日本語を一切聞かないくらいの勢いで英語を詰めたことがあって、それで道が開けました。

## グノーブルと英会話

**那：**グノで普段読んでいる英文は難しいものですから、簡単な英文ならすぐに話せるようになるはず。それに、グノのGSLはネイティブの発音なので、それをしっかり真似すればネイティブの感覚に段々近づいていきます。

**東野：**英語を話すのに高度な文法は要りません。それこそ、前から英文を読むことに慣れてさえいれば、その経験が英会話にも活かされると思います。

**古川：**いろいろな英文を音読していると、「このパターンは前にも出てきたな」という表現にしばしば出会います。そうすると、ネイティブがよく使う表現が段々イメージできるようになってきて、それが英語を話すことにもつながってくると思います。

**谷山：**グノでは英語を話す土台も築けます。話す力は、英語で話を組み立てる力と、英語を話せる口の組み合わせだと思います。その点、毎日音読しているグノ生は習慣的に英語を口にしていて、大量の自由英作文添削で、英語で考えていく経験も積んできています。勇気を出して話すことに慣れていけば話せるようになるのは早いと思います。

**三上：**英語を口に出したり聞いたりするのを毎日繰り返してきたので、英会話に対する抵抗感は少なくなりました。道端で外国人に話しかけられたり海外へ行ったりしても、自分の英語力に自信を持て

ますし、その自信によって、「さらに自分の英語力を伸ばそう」という気持ちになります。現時点では日常会話にまだ支障がありますが、もう少し勉強を継続すれば英会話も上達しそうです。

## グノーブルの数学

**谷山**：中1から<sup>おだ</sup>縷田先生に教えていただきました。問題を解けたら手を挙げて、先生に見せる、という授業スタイルでした。自分が解けるだけでなく、周りがどれだけできるかも分かって、それがいい刺激になりました。周りができていて自分ができていないときは「他の人が解けるんだから自分もがんばらなきゃ！」と。

私はもともと算数が好きだったので数学も好きでした。そして、何よりも縷田先生のお人柄に惹かれました。縷田先生の授業はとてもたのしくて、数学が好きでない人も好きにさせてくれます。そして、「こういうふうには解かなければダメ」とはおっしゃらず、私が別の解き方をしても「こういう解き方もあるんだ！すごいね！」と褒めてくださいます。温かくて優しい先生に教わったことで、数学をますます好きになりました。

**東野**：僕は高3の春から数学を受講しました。最初の頃は「数学ができる」と思い込んでいて、高1までに高校数学を終わらせておいて「これでいける」と信じていました。受験学年に入ったとき、「アウトプットしてみよう」と思ったらアウトプット力が全くないことに気づいたのです。以前に勉強した分野も定着していないことに気づいて焦りました。

グノに入って、よくここまで伸びたなと思えるぐらい、長澤先生と林先生に叩き直していただきました。

以前は、新しいことを学んでそれが使える問題だけを解いて次の問題に進む、という浅い勉強をしていたのです。そのため、解法がバラバラで体系的に整理されておらず、パッと問題を渡されたときに、どの分野のどの解法を使えばいいのかが分からない状態でした。

グノの数学で印象的だったのはセルフチェックシートです。このシートには大きな効果がありますが、出発点は自分の無力さと向き合えるところです(笑)。やるべきことが多い中で自分がどこに位置しているかも気づけました。

解けなかった問題を振り返る機会を与えてくれたのもこのシートです。検証しなければ失敗は繰り返すだけです。敗因を分析して記録を残すと、同じミスを繰り返さないようになります。ただ量をこなすのと違った質の良さがありました。

**谷山**：セルフチェックシートがないと、問題を解き散らかす状態になってしまいます。セルフチェックシートを書くのには、それなりに時間を取られますが、その分、自分を客観的に見ることができました。「何ができないのか」、「できるようにするためにどうすればいいのか」を考えることができて効果的でした。

自分のことを少し高い視点から見られるようになったお陰で戦略的に数学と向き合えるようになったと思います。

**東野**：確かに、問題を解くことよりも、セルフチェックシートを書くことの方に時間がかかりました。でも、表に出ている問題と、それとつながっている自分の潜在的な問題点が少しずつ見えてくる時間でもあったので、とても有意義でした。

こうした自己分析を通して解法の引き出しが少しずつ増えて、解ける問題の種類も増えていきました。直前期にはテスト演習の点数にも成果が表れてきました。

## グノーブルの国語

**三上**：高1で古文を受講しました。学校だけだと、まず扱う量が不足すると思います。グノの授業では、古文に触れる量が多かったので、それだけでも力がつきました。

古文単語についても、英語と同じく語源から教えていただけたので、記憶に残りやすかったです。添削も充実していました。

**東野**：高2で参加したグノの説明会で、吉田先生が古文の重要性を熱く語っていらっしゃいました。高3では数学や理科に全力を注ぐ必要があるから、国語は固められるときに固めておくべきだ、というお話でした。その話には説得力があって、それまで全く受ける気はありませんでしたが、古文を受講することにしました。

実は、学校で中2から古文を3年間やってきて、落ちこぼれのような状態になっていたんです。ところが、グノで高2の1年間古文を勉強しただけですが、全く点が取れなかった古文が得意科目になって、受験のときにも、「古文で得点できる」という精神的な安定が得られました。古文の配点は



邢明吉さん (理I・武蔵)

きくはないかもしれませんが、入試全体を考えると大きなアドバンテージになったと思います。

## グノーブルの物理

**東野：**グノの物理は非常に良かったです。クラスのアットホームな雰囲気に加えて、カリキュラムがだいぶ特徴的でした。普通の物理の授業と違って、実験装置の絵を見ながら歴史で物理を紐解いていくという姿勢が面白かったですね。僕は化学部でそれまで化学が好きでしたが、それ以上とも言えるぐらいに物理が好きになりました。

授業は高3夏まで講義ベースでした。要所要所で取り組むべき計算がありましたが、その計算も無駄な計算でなく、歴史的に意味のある計算ばかりでした。講義を聞いているだけで成績が上がっていったので、受験勉強らしい物理でなかったにもかかわらず、不安は一切ありませんでした。

## グノーブルの先生

**邢：**グノの先生方はとてもフレンドリーでした。僕たちのことを名前前で呼んでくださいますし、廊下ですれ違ったときも、どの先生も挨拶をしてくださいます。そうすると、僕たちの方も先生方に親近感が湧いて、先生と生徒の距離が近くなります。

**古川：**他の塾だと教えている指導歴が長い先生は、生徒との距離がだんだん離れていきます。逆に、生徒との距離が近いのは、大学生だったり経験の浅い先生だったりします。

グノは、経験の深い先生方であっても生徒との距離が近いです。それはかなりうれしかったところです。

**三上：**先生と生徒との距離が近いというのは、2人の言う通りです。授業後に質問しに行っても気さくに答えてくださるので、疑問をすぐに解決できました。

**谷山：**私は中1からグノにお世話になっていて、どの先生も生徒への姿勢が変わらないことを素晴らしいと思っていました。どの先生もとても親身で、困ったときには勉強法についての確かなアドバイスをしていただけました。

クラスが落ちて「自分ではどうにもならない」と思ったとき、清水先生に相談したことがありました。清水先生は「こうしなさい」と考えを押し付けるのではなく、私のやってきたことを肯定しながらアドバイスをくださいました。私のことをよく見てくださっているのが分かって、だからこそ心に響くものがありました。

**東野：**添削などを先生に直接渡せるのも距離の近さでした。しかも、受験直前期でも添削答案を早く返却してくださって、先生方の熱意も伝わってきました。生徒一人ひとりの趣味や性格まで把握した上で指導してくださりました。集団指導なのに個別指導みたいな雰囲気がありました。

**三上：**グノの先生方は、話がとても面白かったですね。設問の考え方や答え方を解説するだけでなく、文章の背景や奥にあるものも話してくださいました。もともと、読みがいがあったり、味わいがあったりする文章を先生が選んでくださっているということもあると思います。お陰で、文章自体にも興味を湧かし、授業を思い出しながら楽しく復習できました。勉強自体のモチベーションがとても上がりました。

**古川：**英語の解説が深く面白くことに留まりません。僕たちが狭い受験の範囲の枠を超えていくことを先生方は応援してくださっていて、それは、授業で扱ういろんなジャンルの英文にも表れていました。

ときには、「もっと世界にアンテナを張った方がいい」とか、「こういうことも想像力を働かせて考えてみるといいよ」などと先生方がおっしゃってくださるのも印象的でした。精神的にも大人になると、扱う英文の読み取りも深くなってますます面白さが増します。自分で気づくと、教えてもらってなるほどと思えるのとは違う喜びがあります。それを促してもらえるところにも、グノが生徒の自主性を重んじている面が表れていると思います。

それから、グノの先生方の、生徒に真剣に向かうという基本姿勢には確固たるものがありました。どの先生にもそれが共通していたので、この塾を信じて懸命にがんばっていくことに、ぶれない安心感がありました。

## 後輩へのアドバイス

**谷山：**スランプに陥るときがあっても、絶対に最後まであきらめないでください。グノに通っていれば、頼れる人はたくさんいます。普段教わっていない先生でも、相談すれば応えてくださいます。だ



谷山 響さん (理Ⅱ・女子学院)



東野 昌伸さん (理Ⅰ・麻布)

から、一人で抱え込まないで、頼れる人には頼って、最後まで自分を信じて受験を乗り切ってほしいと思います。

**古川**：確固たる自分を持って、自分を信じられるようになっていかないと、ぐらついてしまうことになります。演習量でも何でもいいので、「これだけは人に負けないぞ!」と思えるものがあると、それが心の支えになって、受験に集中できると思います。

**東野**：まず、グノから与えられた教材をきちんと取り組んでいけば絶対に実力アップにつながります。それから、ひとつやふたつできない科目があっても、できる科目で点数を稼げば入試では勝てます。確実にできる科目を築いていくことが大切です。

**邢**：英語に関しては、グノに通っているなら、毎回の授業で配付されるプリントを大事にしてください。プリントは、毎週先生が本気で選んでくださったものです。生徒の方も、本気で読み込んだり音読したりして活用するべきです。先生方の熱意に応え続けられれば、絶対に実力がアップします。

**三上**：疑問があったら先生に質問すべきですし、他の人が質問しているのを聞くのも勉強になります。「先生がおっしゃっていることは全部聞こう」という気持ちでいれば、先生方からたくさんのことを吸収できます。グノの先生方を信用して最大限活用する、という気持ちで臨んでほしいと思います。



古川 倫千さん (理Ⅱ・開成)



三上 玄さん (理Ⅰ・早稲田)